

登場人物の心情の把握 (1)通過率 52.4%  
(2)通過率 19.4%

|     | 解答類型                                    | 割合 (%) |
|-----|---|--------|
| (1) | ○ (最初) いっそ二 (最後) かったか                   | 52.4   |
|     | × 最初は「いっそ二」と解答しているが、最後は「かったか」と解答していないもの | 7.8    |
|     | × 最初は「いっそ二」と解答していないが、最後は「かったか」と解答しているもの | 1.1    |
|     | × 上記以外の解答                               | 26.2   |
|     | - 無解答                                   | 12.4   |
| (2) | ○ (例) これから先の人生を前向きに生きていこう               | 19.4   |
|     | × 前向きな気持ちを表す言葉が含まれていない内容となっている。         | 9.9    |
|     | × 坂道に関係することに限定される内容となっている。              | 2.9    |
|     | × 後に続く形になっていない。                         | 2.5    |
|     | × 上記以外の解答                               | 46.9   |
|     | - 無解答                                   | 18.3   |

(2) [ ]には、少女がどのようなことを考えていたかを表す言葉が入ります。あとの文に続くように、十字以上、二十字以内で書きなさい。

(1) 「[ ]」に当てはまる最も適切な言葉を、文章中から二十三字で抜き出して、最初と最後の四字ずつを書きなさい。

小林 「この文章では、少女の気持ちが大きく変化しているね。」  
 田中 「そうだね。その変化は少女の歩く姿に表れているよね。『重い足どりで坂をくだっていった少女が、『きゅうにしゃんと背をのびして』歩きはじめているよ。でも、どうしてそんなに変化したのかな。」  
 小林 「変化のきっかけは、子どもが歩こうとする姿を見たことだね。」  
 田中 「子どもが坂道をのぼろうとしている姿を見て、少女は自分自身のことを見つめ直したんじゃないかな。それまで少女は、『 ]と考えていたけど、元気を出して登校しようという思いになったんだと思うよ。」  
 小林 「そのあとに『自分の目のまえに、長い長い坂を見ていた』という表現や『その坂を一步一歩たどってゆく』という表現があるから、考えたのは学校生活のことだけではないかもしれないよ。もしかしたら少女は、[ ]ということまで考えていたかもしれないね。」

杉みき子 「小さな町の風景」

象徴性の高い叙述に着目

まず全体像を捉える読みを！

(1) の上記以外の解答を見ると、本文中の少女の思いや考えを表す叙述は捉えているものの、23字で抜き出すという条件を満たせていないものが多かった。誤答の7.8%である「最初は『いっそ二』と解答しているが、最後は『かったか』と解答していないもの」もこれにあたる。  
 (2) の上記以外の解答を見ると、子供の将来のことや自分が母親になった時のことなどといった他の登場人物に着目したものや、物語の最後の辺りの印象的な叙述を抜き出したものが見られた。  
 二人の生徒の会話文に「少女の気持ちが大きく変化している」とあるが、まず物語全体を通しての登場人物の心情の変化を捉えさせることが大切である。直接的な心情を表す叙述に加え、「青い空」「長い長い坂」「足」などの象徴性のある叙述と関連付けながら、少女の前向きな心情をより深く捉えさせる必要がある。

### 内容の系統

第1学年 読むこと ウ  
場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。

第2学年 読むこと イ  
文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。

第3学年 読むこと イ  
文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。

**提案** 作品全体の展開や全体を通しての登場人物の変容を捉えさせた上で、心情を表す象徴性や暗示性の高い叙述について話し合わせましょう。

登場人物の心情を捉えさせるには、まず作品全体の時間的、空間的な場面の展開や登場人物の変容などを大まかに捉えさせておくことが大切です。その上で、心情を表す象徴性や暗示性の高い叙述に着目させ、そこから考えられる心情について、問題文に示している生徒の会話のように、根拠となる叙述を明確にして話し合いながら自分の考えを筋道立ててまとめる活動を仕組みましょう。そうすることで、生徒は、登場人物の心情の変化を叙述を基に的確に捉え、深い感動や理解を得られるようになります。

叙述の仕方の確認 通過率 34.3%

| 解答類型 |  | 割合 (%) |
|------|--|--------|
| ○    | 一文め 平和は、世界の人々の願いです。<br>二文め 私は、改めてこの切手から平和の大切さを感じることができました。 | 33.2   |
| ○    | 一文め 平和は、世界の人々の願いです。<br>二文め 改めて私は、この切手から平和の大切さを感じることができました。 | 1.1    |
| ×    | 「できました」に対応する主語を補って二文目を適切に書いていない。                           | 37.5   |
| ×    | 「…願いで、」で文を分け、二文にしていない。                                     | 1.4    |
| ×    | 上記以外の解答  | 16.4   |
| —    | 無解答  | 10.4   |

2 山本さんは、「鑑賞文の下書き」の①「平和は世界の人々の願いで、改めてこの切手から平和の大切さを感じることができました。」には、二つの内容がふくまれていることに気付き、直すことにしました。次の条件1と条件2にしたがって書きかえなさい。

条件1 意味は変えずに二つの文にすること。  
条件2 二文めには「できました」に対する主語を補うこと。

① 私は、この絵から平和への願いや未来への希望を感じました。なぜかというところ、平和の象徴である「羽のハト」が、夜の原爆ドームを上空から照らしているようにえがかれており、それがまるで焼け野原に夜明けが訪れているようにも見えたからです。  
作者は、平和の願いが全世界へと広がり、人々が未来への希望をもって生きることを願ってこの絵をえがいたのでないでしょうか。絵を見るだけでそういった作

叙述の仕方の確認 通過率経年変化



依然として課題です！

誤答を見ると、二文めの主語である「私は」を補うことができていない生徒が一番多い。「主語」が動作等の主体であることを理解できていないとともに、主語が省略された連続する文の中で、動作等に注目し、その主体となる「主語」が何であるかを判断できていないことが考えられる。

内容の系統

第1・2学年 伝国イ(カ)  
・主語・述語の関係

第3・4学年 伝国イ(キ)(ク)  
・修飾と被修飾との関係、文の構成  
・指示語や接続語の役割

第5・6学年 伝国イ(オ)(カ)(キ)  
・語句と語句との関係  
・語感、言葉の使い方に対する感覚  
・文や文章の構成

中学校第1学年 書くこと  
エ 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること。

思い出させましょう。

伝国…伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

提案

分かりやすい表現にするための推敲の指導を継続的に行うとともに、主語と述語の関係を意識する必然性のある言語活動を仕組みましょう。

これまで同様、様々な例文から主語を捉えさせる指導や、実際に主語を補って一文を二文に分ける学習活動を設定し、推敲前後の文を比較させて、主語を明確化させることで、読みやすくなったり相手に伝わりやすくなったりしたという実感をもたせる指導を行うことが重要です。ただし、一過性の指導にならないよう、様々な機会を捉えて、推敲の学習活動を継続的に仕組みましょう。他にも、三人称で書かれた物語を一人称の物語に書きかえるといった文の主語と述語の関係を意識する必然性のある言語活動を仕組みすることも考えられます。